

主題研究

# 特殊教育における 個別の指導計画の評価に関する実証的研究

- 一人一人を生かすための活用の在り方を中心に - (第2報)

特別支援教育室

佐々木 政 義      佐 藤 文 円  
石 川 修 浩

研究協力校

矢巾町立不動小学校  
盛岡市立大宮中学校  
岩手県立盛岡養護学校  
岩手県立花巻養護学校

研究協力員

盛岡市立城南小学校      澤 田 祐 子  
水沢市立水沢中学校      菊 池 義 仁  
岩手県立釜石養護学校      花 坂 正 博

## 研究の概要

この研究は、特殊教育における個別の指導計画について、評価に基づいた修正・改善や有機的な活用に焦点をあて、一人一人を生かす個別の指導計画の活用の在り方を明らかにしようとするものである。

本年度は、2年次研究の完結年度として、個別の指導計画を授業に生かすこと 修正・改善すること 有機的に活用することが必要であると考え、「個別の指導計画を活用するためのチェック票」を作成し、評価に基づいた修正・改善や有機的な活用を図る指導実践を行った。その結果、「個別の指導計画を活用するためのチェック票」は、一人一人を生かす個別の指導計画の活用を図るうえで有効であることが確かめられた。

キーワード： 特殊教育 個別の指導計画 評価 修正・改善 有機的な活用 チェック票

## 研究の目的

今回の学習指導要領の改訂においては、「重複障害者の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成すること」「自立活動の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の障害の状態や発達段階等の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にし、個別の指導計画を作成するものとする」と明記されました。

しかし、盲・聾・養護学校や特殊学級における個別の指導計画の作成や活用の実態は、個別の指導計画が導入されたばかりのため作成する段階にとどまっており、学習場面のみならず保護者との連携や学校生活全般等において有機的に活用されたり、評価に基づいて修正・改善されたりしているとは言い難く、個別の指導計画の評価や活用の在り方が課題となっています。

そこで、本研究では、盲・聾・養護学校や特殊学級において、個別の指導計画の評価及び活用に視点を置いた指導試案を作成し、その試案に基づく指導実践をとおして個別の指導計画の評価について実証的に検討し、一人一人を生かすための活用の在り方を明らかにするものです。

## 個別の指導計画における評価の基本的な考え方

個別の指導計画の作成の目的は、「個に応じた指導の充実」であり、具体的には児童生徒の多面的な実態把握、指導課題の焦点化、指導内容・方法及び教材教具の選定・活用等についての指導の具体的な手だてについて工夫することにあります。また、個別の指導計画の充実のためには、個別の指導計画を授業場面に生かすだけにとどめることなく、生活指導などの学校生活全般での活用や家庭・地域・関係機関等と連携する際の活用、教師間の共通理解（指導の一貫性・適切性）の場での活用等、個別の指導計画を有効に活用することが重要と考えます。

したがって、本研究において個別の指導計画の評価とは、本人のニーズはもとより保護者や教師の願いから導き出された、めざす子ども像に向け、既習学習や本児の実態等に即して作成された計画について、年間、各学期、単元・題材ごと及び1単位時間において「授業」「修正・改善」「活用」の三つの観点で随時的・連続的に検討することと考えます。

「授業」における評価とは、「学習活動」と「指導内容」の両面で評価することです。学習活動の評価では、児童生徒一人一人の目標に準拠した実現状況の把握、よさや可能性、進歩の状況等を見据えた個人内評価、集団のなかでの相対的な位置付けによって児童生徒の学習状況の評価を行うことなどが大切です。指導内容の評価では、的確な目標を設定できたかどうか、目標達成のための手だてを授業のなかで講じることができたかなど、多面的に分析し評価することが大切です。

「修正・改善」における評価とは、随時、児童生徒の目標の実現状況を把握したうえで柔軟に個別の指導計画の見直しが図られたかどうか評価することです。日々の授業が当初の計画に縛られることのないよう適時的な授業を展開していくためには、設定した指導課題、指導計画、指導内容・方法、評価、家庭・地域・関係機関等との連携など、様式も含めて個別の指導計画の「修正・改善」を図っていくことが大切であると考えます。

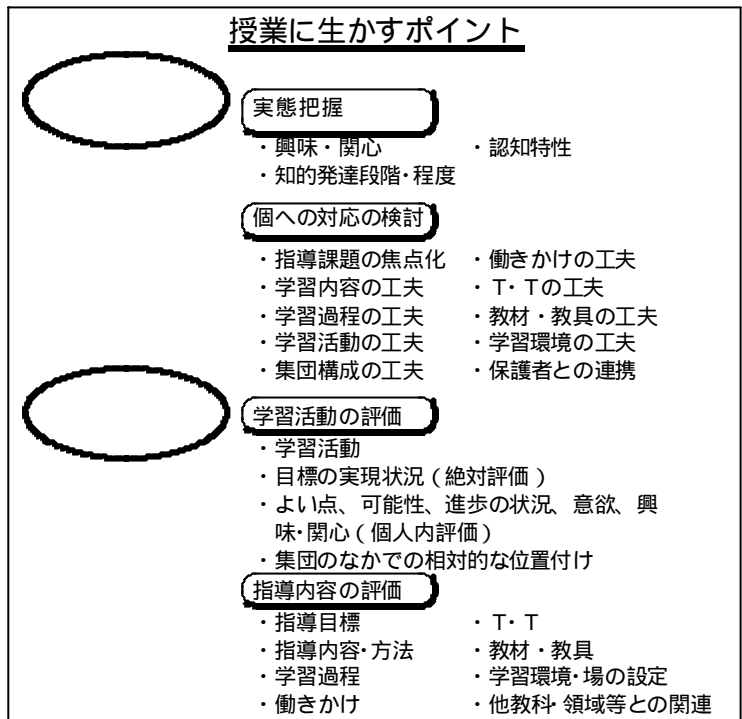
「活用」における評価とは、個別の指導計画を授業のみでなく、保護者や関係機関との連携、諸会議での活用等に有機的に活用されたかどうか評価することです。特に、個別の指導計画の活用は、より効果的な指導を行うため、実際の指導内容・方法について、保護者に具体的に説明し理解と協力を得るために欠かせない活用です。

# 個別の指導計画の評価及び活用に視点を置いた指導試案

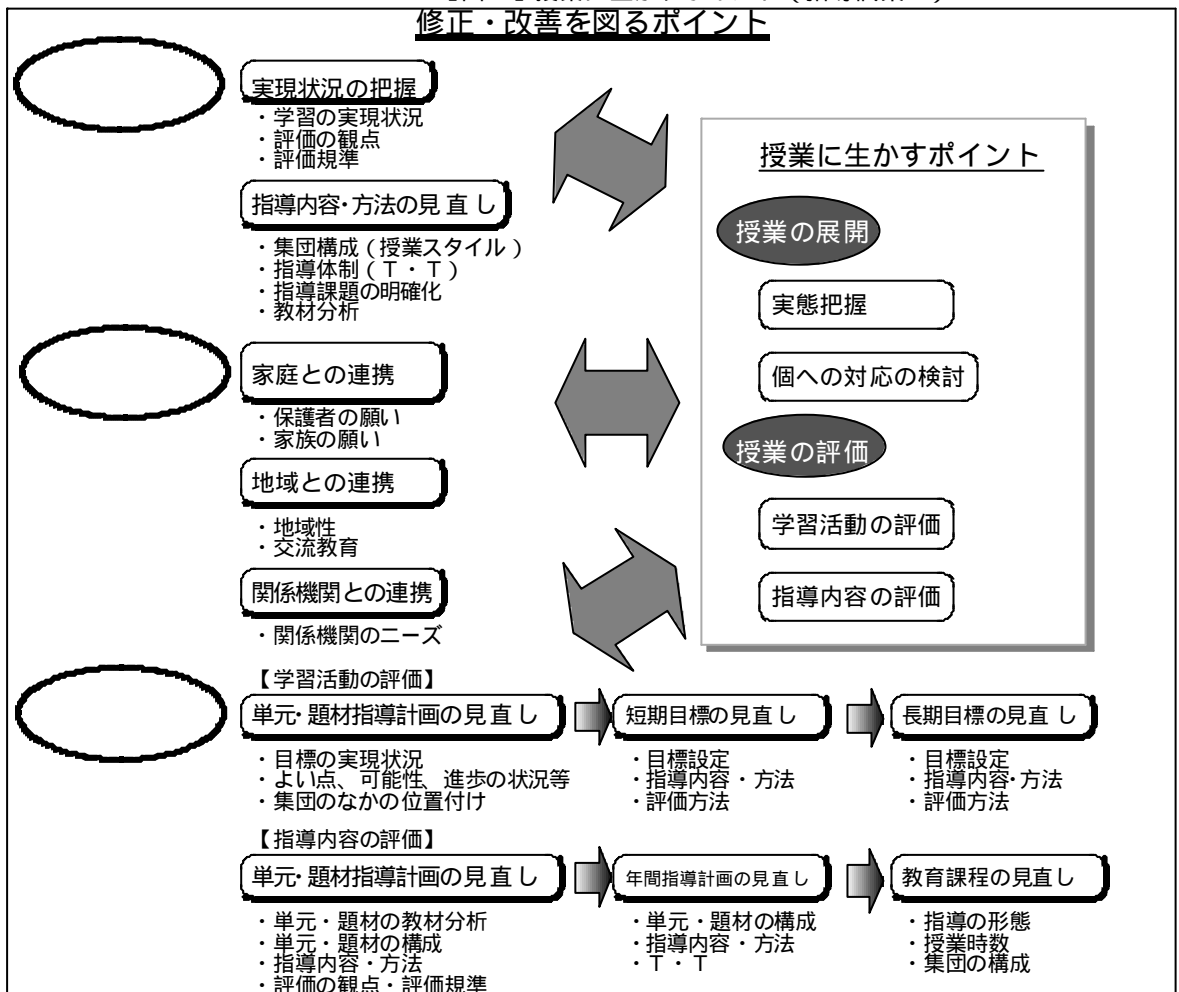
前述の三つの観点からなる指導試案を作成しました。

## 1 指導試案 1「授業に生かすポイント」

指導試案 1は、作成した個別の指導計画を1単位時間の授業に生かすため、【図1】のように「授業の展開」と「授業の評価」の二つの観点からポイントを示しました。授業の展開においては、どのような学習内容が必要か、効果的に指導するためには学習活動をどのように展開したらよいか、教師の人数や役割分担等手だてを十分に検討することが重要です。授業の評価については、学習活動の様子や学習の状況を把握するための評価と指導の評価を行い、次時の指導改善に役立てられるようにすることが大切です。



【図1】授業に生かすポイント（指導試案1）



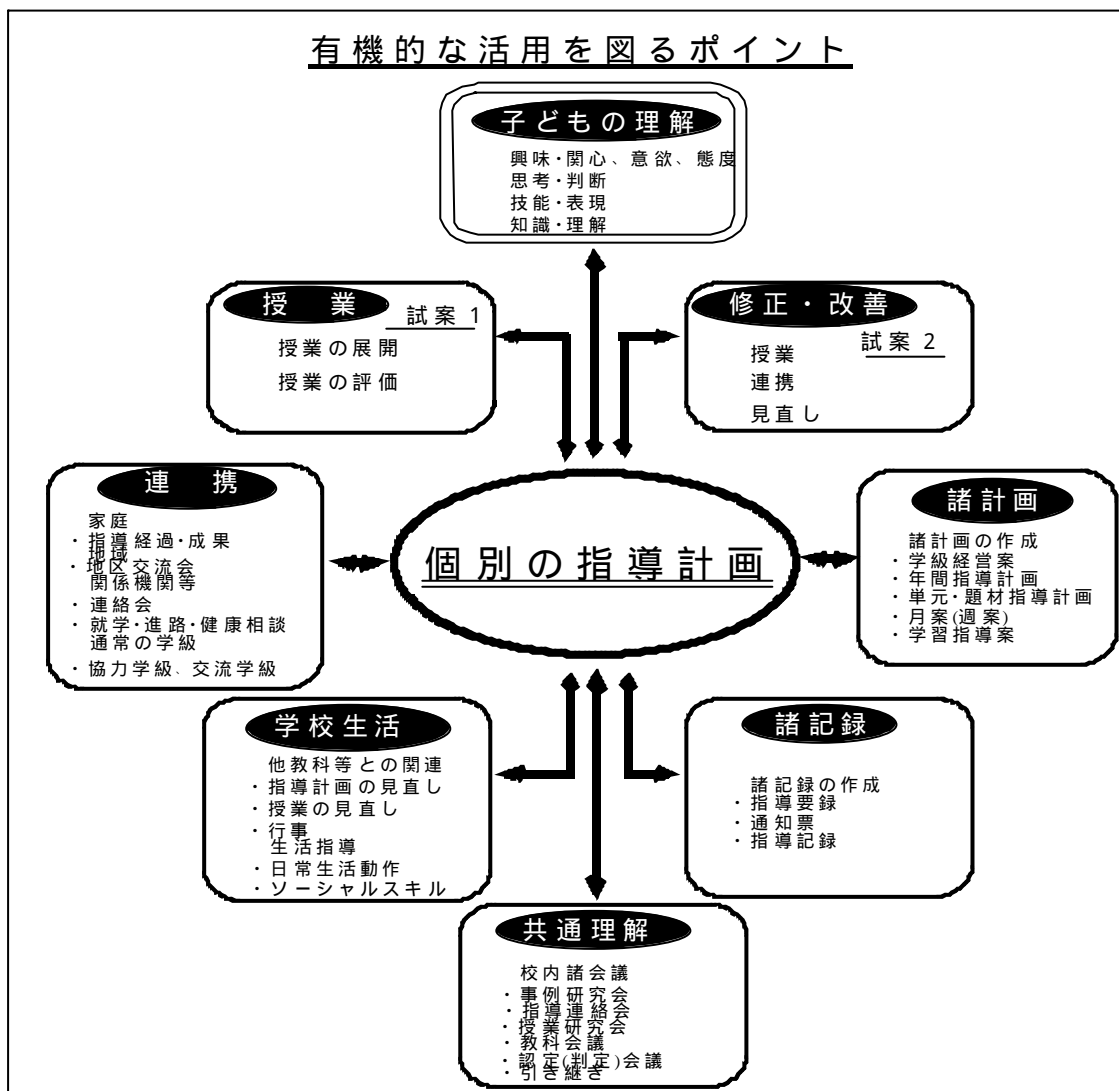
【図2】修正・改善を図るポイント（指導試案2）

## 2 指導試案2「修正・改善を図るポイント」

指導試案2では、前頁【図2】のように「授業」「連携」「見直し」の三つの観点で修正・改善を図るポイントを示し、次の指導に生かす手だてとなるように作成しました。日々の授業のなかで児童生徒の変容や実現状況の把握とそれに基づく指導内容の検討、保護者の願いや児童生徒が生活する地域の特性から当初の計画に縛られることなく柔軟に計画を修正・改善していく必要があります。また、学習活動の評価から単元・題材指導計画や短期・長期目標の計画を見直し、指導内容の評価から単元・題材の教材分析や年間の指導内容の配列、さらには、教育課程の見直しに心がけることが大切です。

## 3 指導試案3「有機的な活用を図るポイント」

指導試案3では、【図3】のように「子どもの理解」「授業」「修正・改善」「連携」「諸計画」「学校生活」「諸記録」「共通理解」の八つの観点から具体的な活動内容・場面について作成された個別の指導計画が一人一人を生かすために有機的に活用されるようにポイントを示しました。授業だけでなく教育活動全体への活用、家庭・地域・関係機関等と連携するうえでの活用、職員間の共通理解を図る機会や場での活用、諸計画や諸記録への活用等、個別の指導計画を有機的に活用し個に応じた教育の充実を図ることが大切です。



【図3】有機的な活用を図るポイント（指導試案3）

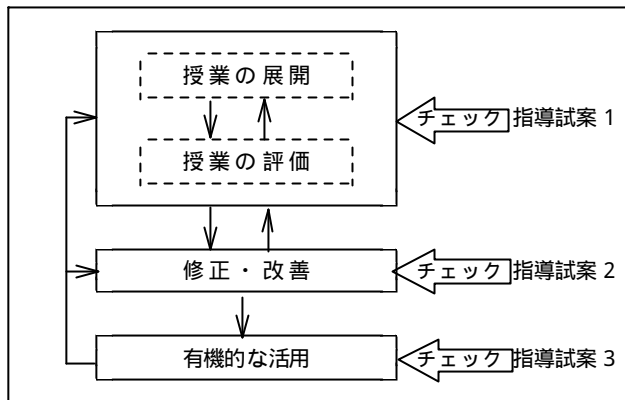
# 指導試案に基づく指導実践

## 1 指導実践に対する基本的な考え方

個別の指導計画の活用を図るには、個別の指導計画の活用の現状がどうなっているか把握し、日常的に個別の指導計画と実践が関連付けられていくことが重要です。

そこで、指導試案に基づき、指導実践を進めるにあたり、個別の指導計画が、授業に生かされているか、修正・改善されているか、有機的に活用されているかを自己チェックし、活用状況等を把握することが必要と考えました【図4】。

各学校・学級では、個別の指導計画の活用状況等は、作成者自らが意識的に把握しなければなりません。作成者や個別の指導計画にかかわる担当者が、個別の指導計画の活用状況等に対する自



【図4】指導試案に基づく活用状況のチェック

己チェック機能を働かせることによって、活用方法等に関する気づきや検討がなされ、個別の指導計画の活用が図られていくものと考えました。

## 2 「個別の指導計画を活用するためのチェック票」の作成

指導実践を進めるにあたり、活用状況を自己チェックする手だてとして、指導試案を基に、「個別の指導計画を活用するためのチェック票」を作成し、そのチェックをとおして、個別の指導計画の活用を図ることとしました。

チェック票は、三つの指導試案に示したポイントを文章化し、チェックの時期により【表1】のように再構成し作成したものです。

チェック票は5枚のシートから構成し、授業に生かすためのシートが1枚（シートA）、修正・改善するためのシートが3枚（シートB・B・B）、有機的な活用のためのシートが1枚（シートC）となっています。

チェックは、それぞれの時期により行い、個別の指導計画の活用等がうまく行われていない項目については、その内容や活用の在り方等を検討するための手がかりをメモ書きすることとしました。

【表1】個別の指導計画を活用するためのチェック票の構成と項目数

＜シートA：個別の指導計画を授業に生かすためのチェック（授業前・後）＞	
A -	個別の指導計画を授業の展開に生かす
1	実態把握【3項目】
2	個への対応【10項目】
A -	個別の指導計画を授業の評価に生かす
1	学習活動の評価【5項目】
2	指導内容の評価【6項目】
＜B：個別の指導計画を修正・改善するためのチェック＞	
シートB -	個別の指導計画を修正・改善するためのチェック（単元・題材毎）
1	「授業」の側面から修正・改善する【7項目】
2	「活用」の側面から修正・改善する【4項目】
3	「見直し」の側面から修正・改善する【8項目】
シートB -	個別の指導計画を修正・改善するためのチェック（学期末）
	「見直し」の側面から修正・改善する【9項目】
シートB -	個別の指導計画を修正・改善するためのチェック（年度末）
	「見直し」の側面から修正・改善する【9項目】
＜シートC：個別の指導計画の有機的な活用のためのチェック（学期末・年度末）＞	
1	連携を図るために【3項目】
2	学校生活を充実させるために【2項目】
3	共通理解を図るために【7項目】
4	諸記録の作成と充実のために【4項目】
5	諸計画作成のために【6項目】

注）網掛けは、5枚のチェックシートを示す。

### 3 指導実践例

#### (1) 授業の概要

対象：知的障害養護学校 高等部 1～3年（8名）

教科等：作業学習「紙工」

指導者：3名（教諭2名、介助員1名）

#### (2) 授業に生かすためのチェック票の記入例

事前に「個別の指導計画を活用するためのチェック票」を活用して、下記【図5】のようなチェックを行いながら、個別の指導計画の修正・改善を進め、授業に取り組みました。

A 個別の指導計画を授業に生かすためのチェック（授業前・後）

A - 個別の指導計画を授業の展開に生かす

<記入方法>  
授業前にチェックする。  
事前に対応した事項について「」、十分対応していない事項には「」を記入する。

項 目	チェック	備考
<b>1 実態把握</b>		
興味・関心を生かしているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	ルーティンとして取り組んでいるものの要検討 (A児のタイマー)
発達段階・程度（理解力等）に応じているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	
認知特性（見方・聞き方・注意の集中等）に応じているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	
<b>2 個への対応</b>		
指導課題に即してねらいが具体的に設定されているか。	<input type="checkbox"/>	工程表 全体像の把握検討中 定着に時間を要す (タイマー) システムづくりから要検討
学習内容が理解できるよう工夫されているか。	<input type="checkbox"/>	
飽きずに進んで取り組めるよう工夫されているか。	<input type="checkbox"/>	
見通しがもてるよう工夫されているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	
グループ編成や座席配置が工夫されているか。	<input type="checkbox"/>	
働きかけの工夫がされているか。	<input type="checkbox"/>	
チーム・ティーチングが共通理解されているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	
教材・教具が工夫されているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	
学習環境が工夫されているか。	<input type="checkbox"/>	
保護者との連携が図られているか。	<input checked="" type="checkbox"/>	

必要とされる場合のみ

A - 個別の指導計画を授業の評価に生かす

<記入方法>  
授業後にチェックする。  
指導の手だて等が適切であった事項には「」、指導の手だて等が不十分であった事項については「」を記入する。  
「反省等」を検討し、簡単にメモする。

項 目	チェック	反省等
<b>1 学習活動の評価</b>		
学習活動が、ねらいに即したものであったか。	<input type="checkbox"/>	ただし検討中も有り 役割明確化必要 不十分
学習内容の理解ができたか。	<input type="checkbox"/>	
よい点・可能性・進歩の状況が見られたか。	<input type="checkbox"/>	
意欲や興味・関心が高まったか。	<input type="checkbox"/>	
集団のなかでの相対的な位置付けが高まったか。（相対評価）	<input type="checkbox"/>	
<b>2 指導内容の評価</b>		
指導目標は、適切であったか。	<input type="checkbox"/>	ただし検討中も有り 役割明確化必要 不十分
指導内容・方法は、適切であったか。	<input type="checkbox"/>	
学習過程が、個々の力を発揮させるように、効果的に展開されたか。	<input type="checkbox"/>	
チーム・ティーチングが、効果的に機能したか。	<input checked="" type="checkbox"/>	
教材・教具は、適切であったか。	<input checked="" type="checkbox"/>	
学習環境は、適切であったか。	<input type="checkbox"/>	

必要とされる場合のみ

個別の指導計画における短期目標の修正・改善を図る（次頁【図6】参照）

【図5】授業前のチェック

注) 矢印・網掛け部分は次時授業のための修正・改善事項を示す。

#### (3) 個別の指導計画の修正・改善

【図5】の授業に生かすためのチェックを踏まえて、次頁【図6】のように、短期目標等個別の指導計画を修正・改善し、授業を組み立てました。

新たに作成した個別の指導計画（一部抜粋）

表2 個別の指導計画

対象生徒(学年)	生徒の実態	その要因仮説	指導目標		指導方法	評価	
			長期目標	短期目標		評価の観点	指導結果
A児(3)	ミキサーの作業段階において、独断で作業を行うことがあり、指導者による注意の喚起や指示を要することがある。	作業の順序性を意味レベルで把握するのではなく、経験的・形式的に理解しているのではないか。	作業手順を把握し、より主体的に作業を行うことができる。	ミキサーのスイッチを切ることを行うことができる。	ミキサーのスイッチを切るタイミングをアラームによって示す。	アラームにあわせてミキサーのスイッチを切ることができたか。	

授業展開案

段階	時刻(時間)	活動名	活動内容	活動内容の詳細と援助事項				備考			
				全 体		個 別					
導入	10:10 (10)	はじめの会	1. 服装の確認	・ Tは、服装が整っているか、確認する。	・ Tは、必要に応じて、エプロンを配布する。			・ 板書用プレート ・ 「ねがい」ボード			
			2. 挨拶	・ 班長のB児は、号令をかける。	・ Tは、A児、H児の転倒を防止(T2)、C児、E児、F児の注意喚起(T3)を行う。						
展開	10:20 (35)	作業前半	3. スケジュールワーク	・ 月日曜日、天気、作業内容、作業担当を確認する。	・ G児は手で数字を表現する。F児には、板書を手がかりに曜日を選ぶ。			・ 1:廊下の水道を使用することを指示する。 ・ 2:紙に明らかな穴があるときのみやり直す。 ・ 3:貼り付け位置の失敗、破損は残し、G児の反省材料とする。 ・ 4:絞り方が不十分であるため、B児が仕上げる。			
			4. 目標の確認	・ 個人目標(「ねがい」)を提示する。この際、前日の反省をもとにコメントする。	・ 「ねがい」ボードを注目する。						
展開	10:20 (35)	作業前半	5. 作業準備	紙液づくり(T2、T3)	紙すき(T1)	プレス(T1)	貼り付け(T1)	・ A児、E児、H児は、作業場に移動する。 ・ A児、H児は体調に応じて、紙ちぎり・ミキサーを選択し交互に紙ちぎりをする。E児はミキサーを行う。紙ちぎりでは、一定量を繰り返しちぎる。 ・ ミキサーでは、水をくみ、紙玉を入れ、スイッチを入れる。 ・ A児とH児は、あらかじめ水を入れた容器から水をくむ。 ・ E児は水道からジョッキで水をくむ。目安のラインより入れすぎた場合(高さにして1センチ以上)は、はじめからやり直す。 ・ H児は水くみの際、ロートを使用する。 ・ A児、E児、H児は、タイマーの音を聞いて、スイッチを切る。 ・ 紙液を所定のバケツに移す。	・ D児は、パイプ椅子の撤去の後、ネットを漉き枠、ネット、カウター、タオルを準備する。 ・ A4紙を漉く。2	・ C児とF児は、パイプ椅子の撤去の後、バケツと布の準備する。1 ・ A4紙をプレスする。 ・ C児とF児は、ネット(濡れた紙を挟んだもの)を所定の位置から持参する。 ・ 布、プレス板をセットし、T3のカウントに合わせてプレスを行う。	・ G児はパイプ椅子の撤去の後、机、ローラー、トレー、すのこ、塩ビ版、雑巾を準備する。 ・ A4紙を貼り付ける。3 ・ 黒の塩ビ版の上に透明の塩ビ版を置き、それに貼り付けを行う。 ・ ネットは、対面する二辺を両手で持つ。
			6. 作業	漉き枠に、その青い面を目印に組み合わせる。 ・ ボールによるカウントでは、カウターの蓋を目印に入れる場所を判断する。 ・ 漉き枠から紙をはずし、ネットに挟み所定の位置に置く。 ・ 紙液(柄杓で一杯)を補充し、水槽の紙液をかき混ぜる。	・ プレス終了後は、ネットを所定の位置に渡す。 ・ ボールをカウンターに入れる。3つたまったら、布を絞る。C児は、絞る動作をした後、T3が新しい布と交換する。 ・ B児は、C児とF児の作業を援助する。この際、Tの援助方法を模倣したり、適切な言語表現を選択す	・ 塩ビ版は、対角線上の角を両手で持つ。 ・ 作業の合間には、乾いた紙を剥がし、塩ビ版を雑巾で拭き取る。					
展開	10:55 (20)	休憩	7. おやつ準備	全 体		個 別		・ A児、E児、H児はトイレに行く(T1が付き添う)。			

注) 楕円の囲みと矢印は、個別の指導計画の修正・改善と授業の手だてとの関連を示す。

【図6】個別の指導計画の修正・改善と授業への関連付け

(4) 有機的な活用を図るためのチェック

有機的な活用を図るためのチェックでは、改善事項が多く見出されました。学校全体での取り組みを必要とする事項が多く、活用には限界はあるものの、【図7】のように、一部家庭への連絡帳等では担任の裁量において活用を図ることができました。

C 個別の指導計画の有機的な活用のためのチェック(学期末・年度末)

<記入方法> それぞれの時期に、活用状況をチェックする。それぞれの時期にチェックし、指導・授業実践を踏まえ、個別の指導計画の活用が図られていない事項については「✓」を、活用の方策の検討を行った事項又は活用を図った事項について、「○」を記入する。

必要とされる場合のみ

項目	1学期	2学期	年度末
1. 連絡を図るために			
個別の指導計画が、家庭への指導経過や成果の伝達に活用されているか。	✓		
個別の指導計画が、交流教育に活用されているか。		✓	

【図7】有機的な活用のためのチェック(一部抜粋)

#### 4 指導実践結果の分析と考察

研究協力校における指導実践結果から、以下のことについて分析・考察しました。

##### (1) 個別の指導計画の活用に係る自己チェックについて

個別の指導計画の活用を図る手だてとして、「個別の指導計画を活用するためのチェック票」を中心に据え、指導実践を行いました。チェック票を使うことにより、個別の指導計画の活用の具体的な取り組みの方法や必要とされる修正・改善点を見出すことができました。個別の指導計画がいかに関活用されているか、個別の指導計画が授業に生かされているか等、教師の自己チェック機能を働かせることによって、個別の指導計画の活用が図られていくものであることが明らかとなりました。

##### (2) 個別的评价の実施について

指導実践の経過のなかで、共通して明らかになったことは、個別的评价の積み重ねの必要性でした。個別的评价があつてこそ、個別の指導計画が指導と結び付き、有効に活用されていくものであることが見出されました。そして、個別的评价をしていくうえでは、個別の指導計画において评价の観点や規準を設けること、授業での児童生徒の具体的な活動を踏まえて指導の手だての工夫を積み重ねることが重要な要件となりました。

特に、個別の指導計画を授業に生かすことを中心に活用を図っていくためには、個別の指導計画に即して、評価についても個別に評価する必要がある、個別の評価票等が必要となりました。また、チェック票をもとにして授業をとおして個別の指導計画を評価していくことは、教師側の指導を見直すこととなり、指導の手だて等を具体的に検討するうえでも有効でした。

そして、授業における個別的评价を行うことにより、年度初めに立てたまま終わっていた個別の指導計画を、単元や学期ごとに見直しを図るよききっかけとなりました。

##### (3) 個別の指導計画を授業に生かすことについて

###### ア 目標や実態に合わせた指導の手だてを吟味・検討すること

指導実践では、個別の指導計画において学習に取り組む実態について把握し、指導の個別化の過程のなかで、教材・教具等指導の手だてを個に合わせていくことの吟味・検討がなされました。

個別の指導計画を授業に生かしていくためには、個別の指導計画に示された目標等を授業実践に意識的に位置付け、授業の設計・準備段階において、指導の手だてとして吟味・検討しなければならないという、個別の指導計画と授業との結び付けの意識が高まったものと考えられます。

###### イ 指導の場を明確にすること

授業実践においては、個別の指導計画における指導目標を、教育課程上、どの授業や指導の場で取り上げるかを明確にすることが求められました。そして、その指導の場の特性等に応じて、個別の指導計画を修正することとなり、生活単元学習の授業実践においては、児童生徒の興味・関心を大切にしたい指導と個別の指導計画の共通性をもたせるように修正を行いました。

個別の指導計画の内容を、どの場あるいは授業で指導するのか明確にし、チェック票により授業と個別の指導計画の関連付けを図ったことにより、個別の指導計画が授業に生かされていくことが図られたものと考えられます。

##### (4) 個別の指導計画を修正・改善することについて

###### ア 表記項目や表記内容について具体的なものにしていくこと

1学期末でのチェックをとおして、年度当初に設定された個別の指導計画は、概括的で大まかであ



ったり、実態把握が不十分であったりとなることが明らかとなりました。

授業や指導をとおして、随時、修正や付け直しを行い、個別の指導計画をより具体化していくことに努めなければならないという意識の高まりにつながりました。

#### イ 必要な情報は、担当者間で共有し、検討し合うこと

教師が複数の場合の指導実践においては、個別の指導計画を、その児童生徒にかかわるすべての職員が共通理解していないことが問題点として明らかになりました。特に、チーム・ティーチングの場合は、個別の指導計画を踏まえた相互の連携の重要性が大きいことが分かりました。

個別の指導計画については、個人情報の保護には十分留意したうえで、担当者間で必要な情報は共有化し、目標や指導内容・方法、指導の手だて、評価の観点等を共通理解し合えるようなシステムとして整えることへの意識が高まりました。

#### ウ 様式や記述方法について、検討するための機会を設定すること

指導実践の取り組みのなかで、個別の指導計画の活用が進むにつれ、様式や内容の不備・不足が見出され、様式や記述方法そのものを修正・改善する必要に迫られることとなりました。

様式や記述方法について検討する機会を意図的・意識的に設けていくことの必要性に対する意識が高まったものと考えられます。

### (5) 個別の指導計画を有機的に活用することについて

#### ア 活用しやすいような様式や表記内容にすること

指導実践をとおして、個別の指導計画を通知票や指導要録等へ活用することの気付きが促されましたが、そうした有機的な活用をしていくには、全校的な取り組みや共通理解が必要となりました。

個別の指導計画については、個人的に日常的に活用しやすいような様式や記載を心がけるだけではなく、校内の関係者・担当者間の連携や検討等全校的に推進していくことへの意識が高まったものと考えられます。

#### イ 個人情報を管理する

指導実践のなかで、有機的に活用する場合といえども、個別の指導計画には、漏らしてはならない個人情報が含まれていることが見出されました。

開示することを前提にした公的な場での個別の指導計画の活用においては、守らなければならない個人情報と日々活用する部分の個別の指導計画とを分けて管理し、公的な場に持ち出されることのないようにしなければならないという意識が高まったものと考えられます。

## 5 個別の指導計画の活用の在り方についてのまとめ

### (1) 児童生徒一人一人の実態や特別なニーズを踏まえた授業の展開を心がけること

児童生徒一人一人は、それぞれに興味・関心や認知特性等があり、一人一人の実態に即した指導内容や指導方法を検討し、授業実践していくことを個別の指導計画の活用の根底に据えることが必要です。児童生徒一人一人の実態や特別なニーズを踏まえることによって、個別の指導計画を授業の展開に生かすことができ、また、授業をとおして児童生徒一人一人の実態や特別なニーズの把握が確かなものとなり、指導の手だて等の充実へとつなげていくことができます。

### (2) 学習活動の様子を具体的にとらえ、学習の評価と指導の評価を一体化すること

個別の指導計画の活用を進めるには、個別の指導計画における指導目標に即して、学習活動がどうであったのか、児童生徒の具体的な学習活動の様子をもとに、児童生徒を評価することが大切です。

また、その児童生徒一人一人に対する教師の指導・支援が適切であったかどうか常に学習の評価と指導の評価を一体化することが大切です。

その際、チームを組む教師と複数の目で検討したり、チェックリストを活用したり、時には授業公開や授業研究を実施するなど、多様な評価方法を検討することが求められます。

(3) 児童生徒一人一人のねらいと指導内容を、指導の場に応じて焦点化し明確にすること

個別の指導計画においては、指導の場や形態に応じて、どのようなねらいをもって、何を指導するのか、焦点化し明確に押さえておかなければなりません。個別の指導計画において焦点化した指導を展開し積み重ねていくことにより、個別の指導計画と授業や指導との関連付けを明確にすることが大切です。

(4) 授業に生かしていくことを基本とすること

個別の指導計画の活用を中心は、授業に生かしていくことです。授業での気づきや学習の実現状況の把握が、個別の指導計画の修正・改善へとつながり、有機的な活用へと広がっていきます。常に授業において個別の指導計画が意識され、授業をとおして個別の指導計画が再検討されるものでなければなりません。

授業担当者が複数いる場合には、学校のシステムとして個人情報・プライバシーの保護については十分に留意しながら、授業づくりにかかわる部分をオープン化して、随時活用できるようにすることが望まれます。

(5) 各関係者からの考えやニーズ等を関連付けること

個別の指導計画の作成に際し、保護者や福祉・医療・労働等の関係者、通常の学級の担任（通級指導教室担当者の場合）等、各関係者からの考えやニーズ等を把握し、個別の指導計画に関連付けることが求められます。そうすることにより、個別の指導計画に基づいて連携した指導を図り、共通理解や評価、話し合いを深め、有機的な活用を推進することが大切です。

(6) 引き継ぐことを前提とすること

個別の指導計画は、指導の継続性や一貫性を図るためにも重要な役割を果たすものです。そこに記された内容等については、担当者が変わっても、継続し発展させていくべきものです。そうすることで、時々の担当者は、保護者との連携を効果的に図ることもできるようになります。

学校や教師は、個別の指導計画はその時々での指導や学習等の記録という性格のものであることを十分に把握し、継続的で効果的な活用が図ることが望まれます。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

(1) 個別の指導計画における評価の基本的な考え方

個別の指導計画の評価においては、目標の実現状況を把握する評価を重視し、妥当性・客観性のある評価規準や評価の観点を基盤に据えることが大切です。また、「生きる力」を培うために一人一人のよさや可能性、意欲や態度、表現力やコミュニケーション能力等個々の資質や能力を評価する個人内評価も大切です。

さらには、児童生徒一人一人の実現状況から、指導目標の妥当性や指導内容・方法、教材・教具、

ティーム・ティーチング等指導と一体化して検討し、併せて計画の修正・改善や保護者への説明につなげていくことが重要です。

#### (2) 個別の指導計画の評価及び活用に視点を置いた指導試案

個別の指導計画の作成や活用の実態が、導入されて間もないため作成する段階にとどまっているという現状から、指導試案は、授業に生かすための展開と評価の検討、児童生徒の変容や目標の実現状況を踏まえた修正・改善の検討、学習場面のみならず、保護者との連携や学校生活全般等有機的な活用の検討の三点に留意して作成しました。

#### (3) 指導試案に基づく指導実践

個別の指導計画の活用状況等に対する自己チェック機能を働かせることによって、活用方法等に関する気付きや検討がなされ、個別の指導計画の活用が図られていくと考えました。そして、指導試案に基づき、個別の指導計画が、授業に生かされているか、修正・改善されているか、有機的に活用されているか、自己チェックし、活用状況等を把握する手だてとして、「個別の指導計画を活用するためのチェック票」を作成し、指導実践に取り組みました。

#### (4) 個別の指導計画の活用の在り方のまとめ

個別の指導計画の活用は、教師の意識によるところが大きく、児童生徒一人一人を大切にし、一人一人に即した授業や指導を展開しようとする、確固たる目的意識が求められます。そして、個別の指導計画に基づいてきめ細やかな指導を展開するためには、教師自ら、自己チェック機能を働かせ、どこをどのように改めていけば良いのか、主体的に判断し、実践していくことが大切です。

また、個別の指導計画の取り組みを、教師一人一人の取り組みにとどめず、教師間の連携のもとに協同で取り組むものとする共通理解も重要です。

## 2 今後の課題

- (1) 個別の指導計画の、通常の学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒への活用
- (2) 新たに提起されている「個別の就業支援計画」「個別の教育支援計画」への充実・発展
- (3) 「個別の指導計画を活用するためのチェック票」の充実

## 【参考文献】

- 教育課程審議会答申 「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」 1998年  
文部省 「盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領解説 - 総則編 - 」 海文堂 2000年  
全国知的障害養護学校長会 編著 「個別の指導計画と指導の実際」 東洋館出版社 2000年  
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課編集 季刊 特別支援教育 2 2001年  
教職研修 「障害のある児童・生徒の評価をどう工夫するか」 教育開発研究所 2001年  
岩手県教育委員会特殊教育指導資料 24  
「障害のある児童生徒のための個別の指導計画の作成の手引き」 岩手県教育委員会 2001年  
全日本特殊教育研究連盟 月刊「発達の遅れと教育」 日本文化科学社  
1987年 7月臨時増刊 1996年 2月 1998年 5月 1999年 6月 2001年 5月